



「令和8年度のスタートにあたって」

校長 三浦 伸之

新入生のみなさん、保護者の皆さま、はじめまして。今年度、岸川中学校3年目を迎えます、校長 三浦 伸之(みうら のぶゆき)と申します。2, 3年生の保護者の皆さまには、昨年度中は大変お世話になりました。いつも岸川中学校の教育活動を温かく見守ってくださり、誠にありがとうございます。本年度もよろしく願いいたします。本日、新入生134名を迎え、2学年142名、3学年146名が進級し、全校生徒422名で令和8年度の岸川中学校がスタートしました。学校教育目標である、自ら学ぶ生徒 思いやりのある生徒 たくましい生徒 奉仕を尊ぶ生徒 の具現化に向けて、教職員一同が心をつにして、教育活動を推進してまいります。保護者・地域の皆様方におかれましては、引き続き、本校の教育活動に対してご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、最近、私は、子供の頃の文房具を思い出していました。今、教室を巡回していると、機能的だったり可愛かったりと、様々な文房具をみなさん使っていますよね。私が育った昭和40年代はもちろん、そんなおしゃれなものはありませんでしたが、当時としては様々な新しい文房具が発売された時期でした。まずは筆記用具部門から「ロケット鉛筆」。私も愛用していました。当時、シャープペンシルなどはまだなく、子供の筆記用具といえば鉛筆。当然鉛筆は使うと芯が減っていくので、ナイフや鉛筆削りで削りながら使っていましたが、これが結構面倒。そこに登場したのが、この「ロケット鉛筆」ロケットの形をした芯が鉛筆型のソケット中に10個程度はめ込まれていて、芯がなくなるとそのパーツを抜いて、後ろに差し込む。すると新しい芯が出てくる。削らなくてOK。というものでした。ただし、ロケットパーツがなくなると、使えなくなること。丸くなった芯はナイフでなければ削れないことが難点でした。続いて、筆入れ部門からは2つ。1つ目は私も憧れだった「磁石付き多機能両面筆入れ」。まず、鍵であるマグネットをかざすと「カチッ」といって蓋の鍵が開きます。そして、ボタンを押すと鉛筆が入っている部分がロケットの発射台のように、「ジジジジ」と音を立てて立ち上がるというもので、これを持っているとヒーローでした。そして筆入れ部門からもう一つ。それは「象が踏んでも壊れない、アーム筆入」。素材にポリカーネートという素材を使用し、実験では1.5tまで耐えられることが証明されているそうです。CMで実際に象に踏ませていたのが、何とも印象的でした。最後に「ノート」部門。これはやはり「ジャポニカ学習長」(小学生ですか)。今も、昔ながらのデザインで売られていて、見る度に懐かしさがこみ上げてきます。前述した通り私は形から入る子どもだったので、新学期には必ず新しいノートを買って、「今学期こそはきれいにノートをとる。」と最初の数日はきれいに書こうとしていましたが、1週間もたつと字は汚い(もともと字が下手)、居眠りで文字の途中からノートの端まで線が伸びている。最終的にはノートを取ることを諦める。ということをしつと繰り返していました。なので、家には最初の数ページしか使っていないノートがたくさんありました。情けない話ですが……。みなさん、文房具は大切にしてくださいね。ちなみに、「アーム筆入」「ロケット鉛筆」は今も売っているそうです。驚きました。

今日からいよいよ新学期が始まります。昨年も同じことを記しましたが、生徒の皆さんには「自分の考えや意思を、しっかりと伝えられる。」そんな生徒になって欲しいと思います。これからは、グローバルな人材が必要になってきます。海外の方は、それが「正しい」とか「間違っている」ではなく、「自分の考えもっていること」それを「主張できること」をととても大切にします。是非、みなさんも「自分の考えをしっかりとって、それを伝えられる人」になってください。ただし、「伝える時には、相手に敬意を払う。」ということをお忘れず。みなさんにとって実りある、良い1年になりますように。